

令和7年4月3日

令和7年度 入学式告辞

九州工業大学長 三谷康範

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。春爛漫の今日、九州工業大学に皆さんを迎え、こうして盛大に入学式を挙行できますことは、教職員並びに在学生一同そして本学に関わる多くの人々にとってこの上ない喜びであります。新入生の皆さんはもちろん、新入生の皆さんを支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、九州工業大学を代表して、お祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

本学は、1909年に開学した私立明治専門学校を前身としています。明治専門学校は、1901年に運用を開始した官営八幡製鐵所へ供給するための石炭の採掘ビジネスを、飯塚キャンパスがある筑豊において展開し、数々の関連企業の設立に関わった安川敬一郎氏の私的な投資によって、日本を支える技術者養成のために戸畑地区に設立されました。

明治専門学校では、開学時に、初代総裁の山川健次郎氏によって建学の精神である「技術に堪能なる士君子」の養成という理念が掲げられました。「士君子」とは、学問、人格ともに優れた立派な人を意味します。開学以来、この建学の理念、つまり技術に精通した知性と教養が溢れるエンジニアの養成と新技術の創出を念頭に教育を行い、後に私立から官立、そして国立九州工業大学へと移行する中でも、建学の理念を脈々と引き継いで、教育、研究、社会貢献の内容を充実させてまいりました。予測不可能な事象が急増する不確実な現代社会において活躍できる技術者は倫理観やビジネスマインド、グローバルマインドなどの教養を併せ持った人材でなければならないことが再認識され、そのような人材育成が社会から強く要請されています。その意味で、現代社会でも全く古びることのない「技術に堪能なる士君子」の理念を116年も前に提唱した安川敬一郎氏、山川健次郎氏の先見性に、改めて敬意を表したいと思います。

さて、本日の入学式の会場はここ九州工業大学記念講堂です。この建物は、1959年10月、本学開学50周年事業の一環として建設されました。当時の嘉村平八学長の熱意と、多くの方々からのご寄付により、学園の未来を担う建物としてその姿を現しました。嘉村学長は、協力者の志を永久に後世へ伝えとともに、学園の場としてふさわしい清楚かつ神聖な空間を持つことの重要性を強く感じ、この記念講堂の建設を提案されました。建学の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の使命を受け継ぐ形となっています。この講堂は、学術研究発表や音楽会をはじめとする文化行事の場として位置づけられ、戦後の新しい大学教育の理念に深く根ざした施設となりました。建設後の最初の卒業式では松

下幸之助氏にお越しいただき記念講演が行われました。設計を手がけたのは、日本近代を代表する建築家である清家清氏です。扇子を広げたような印象的な屋根の意匠は、多くの方々の記憶に刻まれ、本学の象徴として長く愛されております。入学式をこの場所で執り行うことで、本講堂が持つ歴史的価値と理念の継承を改めて心に刻み、これからも教育と文化の発展に寄与する場としてあり続けることを願っております。

近年、デジタルトランスフォーメーションやグリーントランスフォーメーションの分野を起点に様々な技術が発展を見せています。このトランスフォーメーションという言葉には変革や変化という意味が込められており、そこでは、データやデジタル技術を活用して、あらゆる場面における生産性の飛躍的な向上が意図されています。本学も、伝統とトランスフォーメーションの掛け合わせにより、最新のテクノロジーを創出する大学として飛躍を続けています。先ごろ、九州工業大学は文部科学省による「地域中核特色ある研究大学」として全国25大学の1つとして選定されました。通称 J-PEAKS と呼ばれ、日本国内にある25の尖ったピークの一つとして日本を代表する研究大学として認められ、入学された皆さんは、本日その一員として加わりました。入学後は、これからの学びを通じて、共に世界を牽引していきましょう。

このような中で、皆さんの学びの場においても、生成 AI の登場により、大量のデータに基づく知識を容易に得られ、さらにはデータに基づく客観的分析まで行われる時代が到来しています。そのため、「AI に仕事が奪われるのでは」という危惧がしばしば話題に上っていることは、皆さんもご存知のことでしょう。皆さんはこれからの本学での学びにおいて、ただ単に知識を習得するだけでは当然 AI には負けてしまいます。自らの知識と経験をフル活用しつつ他人の意見にも真摯に耳を傾け、自ら思考することで物事の本質を捉える姿勢を常に持ち続けることが重要です。情報をそのまま鵜呑みするのではなく、それが正しいかどうかをふるいにかける、すなわちクリティカルシンキングの姿勢を常に持つことが、人間としての能力を高めるための基本です。九州工業大学では、このような姿勢を養うために、学内に様々な学びの仕掛けを用意しています。

例えば、次世代通信規格制定を目指すビヨンド5G 環境やスタートアップなど多様なプレイヤーが集う共創空間を備えた、多様性あふれるキャンパスの構築を進めています。私たちはこのようなキャンパスを、先端技術に触れながら多様な人々と一緒に未来を考えることができるという意味を込めて「未来思考キャンパス」と呼んでいます。皆さんの学びにおいては、国籍、ジェンダー、人種など多様性あふれる人々が混じり合って、お互いの文化を共に学ぶ多文化共修の場を設けているところです。海外留学、学生プロジェクト、企業で活躍している卒業生との交流の場など様々な仕掛けがあります。これから皆さんが

この地で体験する様々なことに対して偶然の出会いを大切にするとともに、多くのことに興味を持ちながらも、それらがもたらす情報が正しいかどうかをよく考えて確認する習慣を身につければ、AI に負けない人材として立派に成長できると確信しています。技術と人の出会いが思いがけない幸運をもたらし、イノベーション創出の源泉となり、今ある最先端技術を持ってしてもできないことを皆さんが可能にします。この恵まれた未来思考キャンパスで、好奇心を持って色々なことにチャレンジし、客観的な視点で物事を分析し、問題を解決する力を養ってください。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症に代表されるように、世の中にゼロリスクは存在しません。加えて、私たちは極めて複雑な世界情勢の中に晒されています。入学された皆さんが、生活の中でリスクを適切にコントロールし、かけがえのない日々の暮らしや命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、友人との交流と学びを楽しみ、意義あるキャンパスライフを堪能されますことを心から希望し、告辞いたします。

本日は誠におめでとうございます。